

「日野地域未来ビジョン 2030(案)」に関するパブリックコメントの実施概要

1 期間

令和5年2月9日(木曜日) から 3月8日(水曜日)まで

2 周知方法

市広報(令和5年2月1日号)、市ホームページ、日野市公式 LINE、企画部フェイスブック

3 計画案の掲出先

(1)市ホームページ

(2)各課窓口(財政課、企画経営課、七生支所、豊田駅連絡所、市内7図書館)

4 意見表明の方法

(1)所定の意見書様式に記載の上、持参、郵送、ファックス、電子メールまたはインターネット回答フォームにより提出

(2)試行的に双方向ツールとして LIVE!アンケートでの投稿を受付

5 意見表明者数

36人 うち、持参、郵送、ファックス、電子メールまたはインターネット回答 27人
LIVE!アンケートでの投稿者 9人

6 意見の件数

92件 うち、持参、郵送、ファックス、電子メールまたはインターネット回答 80件
LIVE!アンケートでの投稿 12件(いいね件数 39件)

※文意から推測し一定のまとまりをもつ部分を一つの意見として区分し、算定

※複数の同内容の意見については、複数として算定している。

7 意見の内訳(本人に記載による件数)

1章 ビジョンが示すもの	5件
2章 ビジョンができるまで	1件
3章 現状把握(AS-IS)	6件
4章 実現したい価値観・未来像(TO-BE)	14件
市役所どう動くか	7件
ページ全体、該当なし、未記載など	59件

NO.	本文 ※下線部分のみ日野市追加	ご回答	関連ページ
1	<p>各意見をどこまで採用するのか、また誰がそれを判断するのか、そして採用された意見をどのように具体的な計画にして、また誰が遂行していくのかなどは、どのように公開されるのでしょうか？ <u>1-①、1-②、1-③、1-④</u></p> <p>また、個人的な話ですが、まだ市役所さんの各部署での情報共有が不十分な点を感じています。 <u>1-⑤</u></p>	<p><u>1-①、1-②、1-③、1-④</u></p> <p>本ビジョンに関して言えば、発行主体が日野市となるため、日野市となります。一方で、ビジョンを参考にして具体的な取り組みに発展させていくかは第一に、各取り組みをされている方の判断を尊重したいと考えています。</p> <p>実際にはこのビジョンをどう実現していけるか、だと認識しています。このため、現時点でのビジョンの推進方法について、38～39 ページに追記いたしました。市役所が行うだけでなく、市民・団体・企業の皆様と取り組みたいと考えておりますので、引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p><u>1-⑤</u></p> <p>「個人的な話」については内容が分かりかねるため十分なお回答になるかがわからず恐縮ですが、ビジョンに関しては令和 5 年度に市役所内でも周知を図っていきます。新しい概念になるかとは思いますが、現実的には少々お時間いただくことになると認識しています。</p>	P.38、39
2	<p>最早、大仰な”基本計画”は無意味、代わりに、刻々と変化していく社会情勢にキャッチアップしていく生き生きとしたビジョンの共有が必要、と理解しました(P36,37)。 <u>2-①</u></p> <p>”シビックプライド”は皆無なわけではなく、密かにあっても顕在化していないだけだと思いたいです。 <u>2-②</u></p>	<p><u>2-①</u></p> <p>社会の環境変化を受け入れながら、その都度どういった対応が相応しいか、市民、企業、団体と考えていくことが大切だと考えています。一方で場当たりのな対応に終始しないように「ビジョン」という形で方向性を示しています。</p> <p>関連するものとして、昨年12月以降、国がデジタル田園都市国家構想に基づく計画の策定を地方に求めています。その中では「地域ビジョン」を各地域がつくるという言及があります。画一的な取り組みが社会情勢に馴染まなくなっている中で、地域の実情にあわせた多様さや速さが現時点では必要になっていると認識しており、ビジョン内でも「リーンスタートアップ」などの内容で触れるようにしています。</p> <p><u>2-②</u></p>	P.36、37

おっしゃる通り皆無ではなく、気づかない(気づけない)ことが多いのだと考えています。これらは定性的に把握していかないと捉えきれませんが、実務上はどう効率的に行うかという視点も必要で正直なところ難しい部分もあります。そうした状況ではありますが、ビジョン策定プロジェクトにおいては、暮らしの身近なモノやコトを愛でて、楽しんでいるというご意見をいただきました。こうしたことから、身近にあるもの、些細なものでも肯定していくことが大事なのだと気づき、そうした視点を反映しています。

3 「今あるものを大切にする」
大いに共感できます。
明かりが灯り、美味しい水と、温かな食事。
安心して住まえる家、そして街。
この基本を大切にし、感謝することを忘れずに市政を進めて頂きたい。

ひとつ、これだけはと思うことを申し上げます。
「水」です。
経団連の副会長にフランスの水道事業の日本法人会長が就きます。
水道事業の民営化を進める事は、どんなに甘美な言葉を並べられたとしても、命を質に入れるようなものです。
これだけは是非とも防いでください。

3-① P.22、23、24
大局的な視点とはなっていますが、この 100 年~150 年くらいの日野のまちのできごとを捉えていくと、ダイナミックに変化していると言えるのではないかと考えています。
そうした時代の流れの中で変わっていくものがある一方で、その中でも変わらない、普遍的なものがあるものと認識しています。それらはさまざまな言い方ができるかと思いますが、このビジョンの中では5つの行動指針として定義いたしました。
古いもの、新しいもので仕分けるだけでなく、紡いできた人の行動など「まちの文脈」を踏まえて地域づくりをしていくことが大切だと感じました。

ご意見と多少ニュアンスは異なりますが、「安心して学校に通える」などは子どもたちからも多くでてきました。そうした「生活がある場」を大切にしつつ、日野のその次の姿を考えようとしていくことが必要だと考えています。

4 高速下や立体道路のトンネルの壁に、美大生などの学生、または絵画教室などの生徒さんに絵を描いてもらうのはどうかと常日頃思い描いています。
子どもが小学生で登校の際に薄暗いトンネルを通るのが怖かった時期もあり明るい絵があったらいいのになと感じていました。
明るい絵は周りも明るくしますし、防犯にも役に立つのではないかと思います。

4-① P.38、39
ビジョンをきっかけに(実際にはそれだけではないと思いますが)、実現していたことなどを捉えていくとよいのかなと感じました。
このあたりについては再検討し、現時点でのビジョンの推進方法についてという内容で 38~39 ページに追記いたしました。市役所のみならず市民・団体・企

また、若い方たちのクリエイティビティの表現の場の提供としても良いのではないのでしょうか。4-①

5 個々の意見はワクワクするような内容で非常に良いと思います。
2点気になるところがあり、ご意見させていただきます。

1. 資料を見るだけだと個々人のコメントのリストアップが多く、何がポイントなのかが伝わりづらいです。個々の意見を整理して、ポイントとなる部分を明確にできると良いと思いました。5-①

2. (難しいところもあるとは思いますが)ある程度、数値目標が示せると良いのかなと思いました。3章の現状把握において2020のプランのまとめをされていますが、できごとを単に述べているだけに見え、実際に達成できたかどうかという観点が読み取れなかったです。5-②

1については、Miro(オンラインホワイトボードツール)の内容を拝見するとよくまとめられていたので、文書にされる際にまとめきれなかったのかなとも思いました。

よろしくお願いいたします。

業の皆様と取り組みたいと考えておりますので、引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

5-①

24ページ目から示している(4)未来に向けたタネの部分かと思います。ヒノタネプロジェクトで得られた市民・職員の未来への想いで、ビジョンのありたい姿や問い、行動指針の基になっているものです。

このページについて整理すべきかは非常に悩んだところであり、ご指摘の意図は大変理解します。また、miro上ではまとめているのでなぜか、と思われるのも当然だと思います。

9月以降に得ていった意見を10月以降に中間とりまとめとしてまとめていきました。こうした時に、世の中の社会課題を見渡した時に一つの分野のみで解決するものは少ないのではないか、平均的にまとめようとする全体性を失うのではないかという議論がタウンミーティングや事務局の中でありました。

また、ヒノタネミーティングに参加された方は、ビジョンをつくるために参加された方ばかりではありません。まちの未来を考えることを通じて自分の将来を考えたい、仲間をつくりたい、学びたい、といった個人的な理由の方も多かったと記憶しています。

まちは個人があって成り立つものと考えます。そのため、その時点の個人がどうであったかを残し、場に参加できなかった方も後から考えていけるようにすることがビジョンの趣旨に沿うのではないかと考え、ここでは基本的には原文ママで残すという選択をいたしました。

ただし、使っていくような場面においては、ご指摘の通り方向付けをしていく必要もあると考えています。そのため、コンセプトブックでは内容をより整理してA3両面のコンパクトにまとめるようにいたしました。

5-②

コンセプトブック
(別途作成)

数値目標については、実際に使いながら考えていきます。まち・ひと・しごと創生総合戦略をビジョンに基づく戦略として位置づけていきますので、そちらでも議論をしていきたいと考えています。

第5次基本構想・基本計画については 9 月 25 日のキックオフイベントから、第5次基本構想・基本計画の 7 つの柱にこれから重要であると思われる視点を掛け合わせたもの、ビジョンの議論のきっかけとなる資料を提示した上で検討を開始しました。これらを踏まえた上での花や行動指針となっており、miro や YouTube においてその経緯は残していることから、一般論としては取捨選択をした上での整合を図っている、というお答えとなりますが、わかりづらい部分はあろうかと思っておりますので、改めて状況等はまとめ、HP 等でお伝えしていけるように検討したいと考えています。

6 2ページ

騒音や排水などの問題に起因する軋轢も生じてきました。

→軋轢は常用漢字ではないので、振り仮名を付けるか、平仮名で表記するのが良いと思います。6-①

5ページ

「日野地域未来ビジョン」は、日野のまちが辿ってきた変遷や社会背景～

→「辿」は常用漢字ではないので、振り仮名を付けるか、平仮名で表記するのが良いと思います。6-②

5ページなどでは「位置づけ」などを平仮名で表記していますが、8ページは「位置付け」と漢字で表記しています。漢字での表記に統一するのが良いと思います。6-③

10 ページ

ご指摘ありがとうございます。以下の通り対応いたします。

6-①

軋轢(あつれき)振り仮名とします。 P.2

6-②

「たどってきた」とします。 P.5

6-③

「位置付け」とします。 P.5、6、37

6-④

表に年の表記を追加します。

6-⑤

「お祭り」と表記します。

各ページ

P.38、39

表に、年の表記を追加したほうが良いと思います。6-④

13 ページ

2019 年には地域の居場所及び環境情報センターの機能を併せ持ったカワセミハウスが東豊田に新設され、学生や大学と連携したおまつりなども開催されています。

→「おまつり」は「お祭り」と表記するのが良いと思いました。6-⑤

15 ページ

内閣府・経済産業省 RESAS 地域経済循環図(2010 年・2018 年比較)の下 2 つの図について、【グラフと表の見方】の説明文が途中で見切れています。続きを表示することは難しいのでしょうか。6-⑥

22 ページ

未だ知らないことや人を知れる・学べる機会があり、楽しみながら新しい価値を創り出している。

→「愉しむ」の読みは常用漢字表にないと思いますし、読み方も難しいので、振り仮名を付けるのが良いと思います。また、なぜ「楽」ではなく、「愉」を使っているのか、その意図(思い)を脚注などで説明していると丁寧だと思います。6-⑦

35 ページ

「個別政策、問題対応型の政策づくりの段階から、地域の中でつながりを持ち、社会参加し、緑のある環境で過ごせることが、自分の受容や自己肯定感にもつながり、健康にも幸福感にもつながることを、地域をあげて取り組んでいく段階にきています。」について、何が地域をあげて取り組んでいく段階にきているのか、主語が分かりづらいと感じました。6-⑧

6-⑥

図そのものは仕様となりますので、注釈として記載します。

6-⑦

愉(たの)しむ振り仮名とし、注釈を記載します。

「愉しむ。常用外ですが、自分自身の気持ちや思いから生まれるたのしい状態を表します。自分がより満たされている状態であることを表現するため、この字を当てています。」

6-⑧

以下とします。

「市役所も個別政策、問題対応型の政策づくりの段階から、住民自身が地域の中でつながりを持ち、社会参加し、緑のある環境で過ごせることが、自己の受容や肯定感にもつながり、健康にも幸福感にもつながっていくことを認識し、地域をあげて取り組んでいく政策づくりの段階になってきています。」

6-⑨

以下とします。

「日野は一つの公園のようなまちという点では、ウェルビーイングを手作りできる可能性を持ち、強みにもしていくことができる環境にあると言えます。」

6-⑩

文頭を1字下げます。

6-⑪

私どもが作成した文章は「一人ひとり」に統一しておりますが、市民意見は原文

35 ページ

「日野は一つの公園のようなまちという点では、ウェルビーイングを手作りし、強みもしていくことができる環境にあると言えます」のうち、「強みもしていく」とはどのような意味でしょうか。6-9

35 ページ

「また、「諸力融合」をまちづくりのコンセプトとして掲げ、市民、～」について、文頭を1字下げたほうが良いと思います。6-10

全体

「一人ひとり」と表現しているページと、「一人一人」と表現しているページが混在しています。どちらかに統一するのはいかがでしょうか。6-11

全体

「取組み」と表現しているページと、「取り組み」と表現しているページが混在しています。どちらかに統一するのはいかがでしょうか。6-12

全体

・これまでの総合計画の形態にとらわれず(前列踏襲とせず)、広く様々な声を集め、新たな手法にチャレンジする姿勢が素晴らしいと感じました。

一方で、懸念点もあります。

職員向けヒノタネミーティング以外にも、ビジョンの策定に当たって、ビジョンの基本構成や内容について庁内(各課)合意を得るプロセスはあったのでしょうか。

通常総合計画では、個別施策の策定に当たって、関係課と調整があると思いますが、本ビジョンではもしそのような庁内調整が少なかったとすると、各課としては「いつの間にこのビジョンは作られたのか?各課で計画を策定するとき、どのように本ビジョンと連携・整合を図ったらよいか分からない」と混乱が生じないか危

ママとさせていただきます。

6-12

「取り組み」に統一します。

6-13

本ビジョンの庁内への浸透は、課題のひとつであると認識しています。

ビジョンに関する市役所内での情報共有については、令和5年度以降も引き続き実施する予定です。

6-14

フォローアップをしていくこと、レビューをしていくが必要だと認識しています。今後ビジョンを浸透させる・ビジョンを活用するプロセスの中での対話や、これからの社会・環境の変化を踏まえ、ビジョンに示している内容(ありたい姿=未来に咲かせたい花、問い、行動指針など)が追加修正されていくことも想定しています。また、本ビジョンを踏まえて改訂を予定している総合戦略において設定される KPI(重要業績評価指標)の達成度は、観測および評価の対象となっております。

このあたりについては再検討し、現時点でのビジョンの推進方法についてという内容で38~39ページに追記いたしました。市役所のみならず市民・団体・企業の皆様と取り組みたいと考えておりますので、引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

惧しております。6-13

全体

・本ビジョンに対して、PDCAサイクルでいう、C(検証、評価)とA(検証等を踏まえた行動)はどのようにして行っていくのか、記載がないように見えました。C とAは行わないのでしょうか。6-14

7 バックキャスティング思考の新たなアプローチ方法で作成されており、「より良い日野市にしたい」という熱い思いが伝わりました。

僭越ながら 3 点ほど感じたことをお伝えさせていただきます。①P.37[地域未来ビジョンの位置づけイメージ] について。市民や個人、団体、企業が主体となりSDGs の達成と持続、発展をビジョンとすること、KPI は SDGs とすることとし、あくまでも市は補助機関であることがこのイメージ図で一目わかりました。今後、市民や企業向けの説明資料には、最初にこの図を基に説明があるとビジョン・大前提がわかりやすいのではないかと思います。7-1

②ありたい姿「5.環境にやさしく、住むことが誇りになるまち」と挙げられています。「日野市といえば〇〇」という印象があれば市民の誇りに繋がると感じます。例えば、ごみ量が全国2位という情報を知らない市民が多いということであれば、もっと発信することで1位を目指す動機付けになったり、市のイメージ・魅力にも繋がると感じます。7-2

③ありたい姿「19. 心地よい居場所、住み続けたいまちを自分たちでつくるまち」と挙げられています。まさにこのビジョン作成においてもタウンミーティングを重ね、市民や個人、団体、企業が主体的に参加できる取組機会を創出されています。日野地域未来ビジョン 2030 のリーフレットにおいても、2030 年に咲かせたい花を自ら考え、アクションを共有するという参加型の方法を取られており、“自分たちでつくるまち”を体現されているように感じました。今後も日野市に関わる全ての

7-1

ご指摘ありがとうございます。今後実施予定の市民・企業・団体向けにビジョンを浸透させる取組みの際にも、当該図を使用することも含めて分かりやすい説明を心がけます。

7-2

ビジョンが設定するありたい姿のひとつである「5.環境にやさしく、住むことが誇りになるまち」を実現する手段として、情報発信によって市内外での日野のイメージを高めるというご提案について、今後の施策を検討する際の参考とさせていただきます。

7-3

本ビジョンの作成プロセスについて、日野の地域に関わる方々に主体性を持ってご参加いただいた点を評価いただき、ありがとうございます。令和 5 年度以降も、本ビジョンを地域で使って頂くことで、地域の各所で主体的なアクションが起こる契機となることを目指し、参加型の取組みを進めて参ります。ご都合が合いましたら、引き続き議論に参加いただけましたら幸いです。

ひとがより良いまちづくりに向けて参加できる機会があれば良いと感じます。7

-③

8 ”P20 ありたい姿

12 まちと企業が結びつき…

15 三方よし…

この考えに賛同します。企業は自分たちの利益のみを追求する発想ではお客様の理解が得られなくなっています。一方、市民の考え方やライフスタイルも様々であり、行政のみに頼る地域づくりは限界があると思います。

まちと企業が結びつき、売り手・買い手・社会の三方よしの関係を目指すことがこの問題の解決策の一つであると考えます。

おそらく、多くの企業が同じ考えを持ちながらどうやって？何をすればよいのか？模索しています。一企業単独でできることに限界はあり、行政がその中継点になることにより可能性が広がります。 8-①

P36 市役所はどう動くか？ ■一人ひとりが…

「行政主体から地域主体への転換」に向け、微力ながら一緒に進めていきたいと考えております。 8-②

9 地域のビジョンをオープンに様々なステークホルダーの関わりの中で考えることは、複雑化する地域の課題解決や地域の魅力を高めるうえで重要であると思えます。地域のことを思い、考える人が増え、それらをつなぐ場、機会が生まれれば大きなそして持続可能なチカラとなるからです。企業もこのような動きの中に入ることによって自社の成長と地域社会の豊かさへの貢献を両立した未来が見えてくると思えます。 9-①

8-①

特に 2013 年以降、日野市は官民連携の取り組みを進めてまいりましたが、この間 SDGs の浸透などもあり、民間部門が公益部門との連携を望む機会が多くなっているように感じています。例として、「共創」という言葉がビジネス用語としても認識されていることなどがあげられます。

一方で、全体的にはまだまだ相互理解が必要な状況だと考えます。本来、多くの企業人が市民であるように、暮らしと仕事はグラデーションを持ちながらも関わっておりますが、難しさもあると認識しています。市民や企業、行政が対等なパートナーシップをもって地域づくりを行い、それが社会にもつながっていくよう、行政は市民と企業、企業と企業の対話の場の機会を増やしていきます。

8-②

不確かな未来や複雑な問題へのアプローチに対応していくためには、行政も市民も団体も日野に関わる一員として、それぞれの役割を果たし、一緒に新しい解決策を創っていく必要があります。引き続き、ご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

9-①

今般、自動車業界などでは 100 年に一度の変革期と言われていますが、日野市においても地域づくりの様子を現在から過去にわたって観察していくと、転換点を迎えていると感じます。こうした中では、過去と今、将来は地続きであるという仮説を持ちながらも、「なぜそう感じるのか？」を問うことで価値観や個々人の前提を捉えることが必要だと考えていました。だからこそ、参加者がどれだけ主体的に参加できるかは対話のカギだと考えております。

他地域の話を知っていると、こうした対話の場に企業さまの名刺を持って入っていく方がいる地域は珍しいのだと気づきました。これも、日野市という地域の

特徴かもしれませんが、発注者・受注者だけではない持続可能なパートナーシップのヒントになると感じています。企業さまも中に入っていただくことで、よりダイナミックな流れになるものと考えていますので、ご都合が合いましたら、引き続き議論に参加いただけましたら幸いです。

10 日野地域の未来を考えるにあたり、今後10年間で訪れる大きな変化合わせ、地域づくりも個の幸福感をどう高めていくかがカギを握るとの認識は、そのとおりで大変重要です。

近年、ひここもりや 8050 問題など、複雑な悩みを抱えながらも、周囲の無理解により、生きづらさを感じ、SOS も発信できない世帯が増加し、不幸にも死を選択する方がいます。これは、ステップファミリーも同様で、様々な悩みがあっても、地域で孤立してしまい、周囲の理解や支援が不可欠です。

そこで、17頁に記載の、しあわせのタネを育てあう日野の未来を実現するため、自分と他者が生きている、生きてきた背景を認め合えるよう、ステップファミリーの認知度を高め、地域で支え合い、支援につなげる取組を実施すべきと考えます。他の自治体でも支援を始めています。10-①

10-①

本ビジョンの、個の幸福感を高めるという視点を持つことが重要になるという趣旨にご賛同いただきありがとうございます。

そのうえで、社会全体で受け止めるというような視点をどう構築していけるか、ということかと感じました。このような視点を市役所全体でも共有できるよう、庁内へのビジョン共有・浸透に努めてまいります。

ステップファミリーを支える取組に関するご意見については、関係部署に共有いたします。お気づきの点がございましたら、またご連絡いただけましたら幸いです。

11 P35-37、市役所はどう動くか？にご意見、感想を述べさせていただきます。具体的な取り組みではなく方向性を提示することに共感します。大きなビジョンに対して柔軟な姿勢で具体的な取り組みを計画していくことが行政の仕事かと思えます。

市民、企業、行政が対等なパートナーシップによる地域課題解決の発達の導入と有りますが是非、積極的に取り組んで頂けたらと思います。P37 にあるこれから(図)の横断的な取り組みプロジェクトに期待します。縦割り組織が常の自治体なので横ぐしでの展開を日野市で実現して頂けたらと思います。11-①

11-①

P.37

12 いつもご苦勞様です。

パブコメ拝見しました。

大筋では前向きでワクワクするような提案でしたが一点気になるところがあります。

12-①

本ビジョンにおいて、「ごちゃまぜの場」という言葉は「立場や世代の異なる人々が分け隔てなく混ざり合うことができる地域の交差点とも言える場」と定義しておりますが、これは必ずしも「多様な性質を持つ方々が画一的に等しい扱いを受ける場」を意図したものではありません。

18 ページ・23 ページの行動指針【ごちゃませの場を増やす】です
 身体の性別で分けるべき場があるということを補足し、強調・周知していただき
 たいのです。

何を当たり前のことをとと思われるかもしれませんが、今のままの書き方だと拡大解
 釈されかねません。

昨今、『男性器がついていても心が女性なら女性として扱うべき』かつ『心が女性と
 言われたなら疑うことは差別』との思想が『多様性の尊重』『ジェンダー平等』『反差
 別』として市井の人々の間に入り込んできています。

実際に日野市ではそうした主張の活動家を複数回呼んで公演を依頼しているの
 です。

トランス女性の犯罪率は男性とほぼ同じであるとデータが出ていること
 男性器がついたままで女性スペースに入りたがる者がいること
 スポーツ界では男性の身体のまま女子の種目に出場し賞を獲っていること
 など都合の悪いことを活動家は黙っています。

トイレやお風呂などの女性専用スペースは勿論、スポーツや犯罪統計など身体の性
 別で分けなければ女性や女兒の安全や尊厳が守れなくなることを危惧しています。

当然、多くのトランスジェンダーの方はそんな乱暴なことを言いません。

活動家ではなく、一般の市民の声を聞いてください。12-①

今回ご意見いただいた内容に関連していえば、日野市としても、トランスジェン
 ダーの方がトイレや更衣室など性別によって空間が分かれている施設を利用さ
 れる場合の考え方として、トランスジェンダー本人と他の利用者の双方に配慮
 するという視点は重要であると認識しており、所管施設等においてもこうした
 考えのもとで運営していくように取り組みを進めているところです。

今回のご意見は関係部署に共有した上で確認を進めていきます。お気づきの点
 がございましたら、またご連絡いただけましたら幸いです。

13 【総論】
 全体的な「日野地域未来ビジョン2030」としては、ストーリーとしては、まとまって
 いて、ビジョン的なストーリー、現状把握からまとめへの展開は読みとれ、なるほど
 感が湧きます。

ご指摘ありがとうございます。以下の通り対応いたします。 P.38、39
 データ見る日野
 (別途作成)
 13-①
 ビジョンを踏まえて日野市役所としてどう考えるかまで出すことを目標として
 コンセプトブック
 おりました。現時点でのビジョンの推進方法についてという内容で 38～39 ペ
 (別途作成)

【個別な所感】

1. ビジョンのできあがり感

しかし、紙面本文中でも触れていますが、日野市役所が作った計画に読み取れません。

市民の参画・市の職員の参画・作成プロジェクト(作成部署)の議論が見えづらくなっています。それぞれ、集合した市民の意見の具体的な項目を集約したような形で、意見や問題の強弱が見えづらい感じがしました。 13-①

2. 市民地域参画意識、向上心の変化等や市役所の課題(数値化)が画一的でもほしい

P3 私達自身に目を向けると「ライフスタイルの個別化や価値観の多様化・・・」に
例えば、

- 2-1. 市民の選挙の投票率の20年間の推移 2022 7/10 参議院選 56.4%
- 2-2. 市民の自治会加入率 2022 39%
- 2-3. 市民当事者意識のKPI データなど???
- 2-4. 市民の好評価の内容など 13-②

3. 文面が官庁風で単調です イノベーションや時代変化を感じる表題や文節に

- 3-1. 文書の大切なところは 大きく・色付き・太文字・数値や図表で説明
- 3-2. 最後資料集など付け、年代ごとの日野市の10大ニュースなど
- 3-3. 「はじめに」「結びに」挨拶ではないので、はじめに<いらぬ>→(いきなり表題)持続可能な日野市ビジョンを創りたい 13-③

P35 市役所はどう動くか→市民と市役所はどう

行政計画

結びに<いらぬ>→(いきなり表題)変化が激しい時代において必要とされるビ

ージに追記いたしました。市役所のみならず市民・団体・企業の皆様と取り組みたいと考えておりますので、引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

13-②

意図は了解いたしました。実際のところは本体(本文)に記載するか資料としてまとめて出すかなどかと思えます。

別途、「データ見る日野」という web ページを作成する予定がありますので、そうした中で盛り込めないかを検討しています。

13-③

ご意見として承りました。現在作成中のコンセプトブックにおいて対応させていただければと思います。

本体については立ち返るものという機能を想定しており、内容に関しては読み解けるが読み方についてはできるだけ余地を挟まない方がよいと考え、文体はミニマムなものとしております。また、行政用語などはできるだけ使わないように心がけていますが、真摯に受け止めさせていただきます。

13-④

素案 P35 はあくまでも市役所に対する視点となります。市役所ではビジョンを受けてこうした考えの下、取り組みを検討していく、というものです。また、ビジョンに記載してある内容は市役所と市民のみならず、多くのパートナーとの連携が必要であると認識しています。

「結びに」の件は削除して対応いたします。

13-⑤

紙媒体としてのご意見かと推察いたしますが、現時点で紙媒体での印刷は考え

ジョンとは何だろう 13-④

4. P4やP16、P37などは、高齢者に読み取りずらく、資料編が差し込みでA3にするとか全世代読める、見えるようにすると参画感、読み取れ感が増すと思います。

13-⑤

5. 目次を入れると読みやすいのでは 13-⑥

6. 「はじめに」「結びに」下側余白に 写真や日野市の市の自慢 等を入れて読み手の意識を引き付けたい 13-⑦

ておりません。そのため、印刷する場合は一般的なプリンターを前提とする必要があるため、A4 形に統一しています。データ上で拡大可能ではありますが、紙資料でないと、という方には別途ご対応したいと考えています。

アクセシビリティという観点から UD フォントを導入しております。また、文字でするので、視覚等の課題が大きいと考えておりますので、今後音声コードを発行してまいります。これらはご高齢の方のみならず、多くの方に寄与できるものと考えております。

13-⑥

表紙及び表紙の次のページが重要だと考えています。行政計画によくあるレイアウトを一旦廃すること、13-③でご指摘いただいた通り、まずイメージをお伝えすることが必要だと考えたためです。そのため、目次は作成しておりませんが、やはり目次がないと、というご意見が多いようでしたら適宜変更させていただきますと存じます。

13-⑦

ご意見として承りました。現在作成中の「データ見る日野」において対応させていただきますと存じます。

14 ・As-Is(現状認識)をベースに To-Be(あるべき姿)のタネをタウンミーティングでの市民、市職員の意見を取り込んでいく方向性は理解しますが

策定手法についてご評価いただき、ありがとうございます。

P.38、39

1. 3章の現状把握は2020からの課題明確化が不十分 14-①

14-①、14-②

これまでの長期計画では、まちの目指す姿として目標を設定し、それに向けて行政が主体となって取り組んでいくという考え方が採用されていましたが、本ビジョンにおいては個の幸福感を高めていくことに主眼を置き、市民や職員の声をもとに、2030年に日野市で起きているといいこととしてありたい姿(29の花)をまとめ、市民・企業・団体・行政など地域に関わる主体がそれぞれの意思に基づいて各自のありたい姿を目指し、時に協力しあいながらアクションを起こし

2. 4章あるべき姿、タネは市職員の意見を取りいれたところは評価できるが、2030の当初と似た状況で膨大な多種多様な意見をどう選択と集中していくのが不明確(全部は取り込めない) 14-②

3. 市の方向性(P35,36)とのマッチングをどうしてゆくのかが見えない 14-③

以上ですが、意見としては本来 日野市(地域)の現状を冷静に把握した As-Is なくしてそれぞれ最もかもしれないが多種多様な拡散した To-Be を取りまとめそのギャップを埋める実行計画の策定は難しいと思う 14-④

ていくという形を目指しています。アクションを起こす主体によっては、現状のありたい姿(29 の花)に対して選択、集約、あるいは新たなありたい姿を追加していくこともあり得るものと想定しており、こうした考え方をより広く地域に共有していけるように努めて参ります。

14-③、14-④

素案 P38 にお示した通り、本ビジョンを勘案した総合戦略を設定し、その戦略に基づいた横断的プロジェクトや個別計画、個別事業を進めていくことで、本ビジョンの考え方を行政の取組みに結び付け、実施して参ります。

ご指摘の通り、個の幸福感を高めることに主眼を置く以上、To-Be も地域に関わる人の数だけ存在し得ることとなります。それらすべてを網羅的にとらえ、全てのギャップを埋めていく作業を、行政単体で実施するのは難しいものであると認識しています。

本ビジョンでは、広く声を集めることで拡散した To-Be の中でも共通する主題を見出し、一定程度までまとめてありたい姿(29 の花)として提示しています。行政としての実行計画を策定するにあたっては、行政単体で進めていけること、行政が他の主体と協力することで達成に近づけること、行政ではリーチするのが難しいことを把握することが必要であり、そのためには地域や社会、環境の現状を As-Is として冷静に把握することが求められると考えております。

<p>15 今の日本全体に蔓延している、将来に対する不安や、個人のつながりの欠如など、みんなが感じながらも、なかなか個人では解決できないとあきらめている課題感に対して、市として、ポジティブなアクションをしていこうというメッセージを感じることができる内容でした。特に、行動指針のところは、メッセージ性が強く、良いと思います。<u>15-①</u></p> <p>これからまとめられるのだと思いますが、初見の人にシャープに内容やメッセージが伝わるようなまとめ方をしていくと更によいと思います。(「かかわったみなさんの意見を尊重し、形に残す」という意識がドキュメントから伝わってきます。まとめられている方が大変だなと思って拝見しました。)</p> <p>日野市の運営は、市民の方に対して、いつも真摯の姿勢で向き合う誠実な組織だなと感じております。他の区市町村とは一線を画した、「本当の豊かさとは何か」を社会に投げかけ、実現し続ける市であっていただきたいと、応援しております。<u>15-②</u></p>	<p><u>15-①</u> 日野地域未来ビジョン 2030 はこれから訪れるであろう社会の変化をポジティブに受け入れていくことを前提としたものです。行動指針やありたい姿、問いは、ヒノタネプロジェクトで得た市民、行政の個々の思いからまとめたものです。</p> <p><u>15-②</u> ドキュメントを残す、アーカイブ化したうえで、方向性についてさらにお伝えしやすくするため、コンセプトブックを作成します。一人ひとりの未来への思いがビジョン、そしてこれからの日野市を創る原動力となります。一つ一つに込められた想いを共有し、分かち合うビジョンにするために、24 ページ以降の(4)未来に向けたタネのページを設けています。皆さまと共にビジョン実現に取り組んでいきますので、引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p>	<p>P.38、39 コンセプトブック (別途作成)</p>
<p>16 1. 2030 ビジョンは 2020 を受け継ぐ日野市の最上位総合計画です。</p> <p>2020 プラン中間検証で示された方向性の展開に基づき後期 2020 プランがだされその実行を追求されました。その成果、問題、新たな課題の確認の上、2030 プランが策定されると考えます。</p> <p>行政計画であり、市に策定、実行の責任があります。</p> <p>日野地域未来ビジョン 2030 案は 2020 プランを受け継ぐ日野市の最上位総合計画とは考えられません。</p> <p>また 2010 プラン、2020 プランのように策定に市民参画がおこなわれていません。<u>16-①</u></p> <p>2. ・ プランでなくビジョンにすることの理由が不明確</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状把握(As-Is)特に 2020 プランについて からは出てこない。 課題明確化が不十分。2020 プランの成果、問題、課題の検証が不可欠。 ・下記をどう位置付けていたか。どう受け継ぐのか。 	<p><u>16-①</u> こちらに関しては改めてご説明します。</p> <p>自治体における「基本構想」の策定義務は 2011 年の地方自治法の改正においてなくなっていることから、いわゆる総合計画とビジョンの法的な位置づけやバックボーンは全く同じものではないと認識しています。一方で、機能としては総合計画を一部受け継いでいます。そうした意味で、「目指すもの」としての認識は変えておりません。</p> <p>市民参画も定型的なものではなく、状況に合わせて手法は変化するものと考えています。第5次基本構想・基本計画と比較すると、同質的な形での参加から異質、多様なものを踏まえての参加をどう扱うか、という点が大きく変化しています。これは行政計画や公共事業といった分野での「参加・参画・協働」だけではなく、広く社会全体において模索されているものと認識しています。市民のみならず、団体・企業なども可処分時間が限定されていることも踏まえ、さまざまな参加・参画・協働の形があることを受け止めた上でのプロセスを検討していきまし</p>	<p>P.38、39 コンセプトブック (別途作成)</p>

○日野市 第2期SDGs未来都市計画（2022～2024）

（日野市 第2期SDGs未来都市計画（2022～2024）で

1. 長期戦略ビジョン(基本構想・基本計画) 日野市の最上位計画である基構想・基本計画(2020 プラン後期基本計画)は 2016 年に策定し、「ともに創ろう 心つながる夢のまち 日野 ～水と緑を受け継ごう～」を将来都市像 として、まちのアイデンティティである「水」と「緑」を次世代に承継する都市を目指している。2022 年度には 2030 年までの目標を定めた改訂を予定しており、SDGs の 17 のゴールの実現に向けた目標設定とバックカスティングの思考による政策体系への転換と施策マネジメントを推進する。また、169 のターゲット、244 指標に加え、ローカル指標を設定する。）

○ 平成 25 年に日野ビジョン50—日野曼荼羅が作られた

○ 平成 28 年には日野市まち・ひと・しごと創生総合戦略がつくられた。16-②

2. 行政計画であるのに行政の行動指針(基本政策方針)がなく、市民の行動指針が強調されている。2010、2020 も同じ。16-③

3. 市民参画は行政計画策定、実行、進捗管理、実績評価への参画であり、単に要望、意見をだすことではない。16-④

4. ありたい姿(2030 年に持続可能で、ウェルビーイングを実感できる日野市)はビジョンといえるのか。日野ビジョン50—日野曼荼羅または 第2期SDGs未来都市計画の1 将来ビジョン(2)2030 年のあるべき姿の方が妥当と考える

{(3) 地域未来ビジョンのコンセプト ① ありたい姿(花) 2030 年に持続可能で、ウェルビーイングを実感できる日野市が実現した時に、どんなことが 起きているといいでしょうか？ 現在の市民の思い(タネ)や動き始めていること(芽)が、2030 年に花咲いた状況で何が起きているのか、こうなっていたいという市民、職員の声をもとにまとめました。}

た。そうしたことから、第4次基本構想・基本計画及び第5次基本構想・基本計画と同じ参画の手法は馴染まないものと考えています。

16-②

理念やビジョンといった正解がない不定形のを更新しようとするときには、以前と現在が地続きであることを唯一の前提に考え始めるのではなく、「なぜそう感じるのか」を多面的に捉え直す作業が大切だと考えています。第5次基本構想・基本計画の策定から 12 年間という年数が過ぎていたことから、まずは以前の「構想」の背景にある価値観や社会の前提に対して、今の私たち自身がどう捉えるのかを明らかにする必要性がありました。

そのため、9 月 25 日のキックオフイベントから、第5次基本構想・基本計画の 7 つの柱にこれから重要であると思われる視点を掛け合わせたもの、ビジョンの議論のきっかけとなる資料を提示した上で検討を開始しました。これらを踏まえた上での花や行動指針となっており、miro や YouTube においてその経緯は残していることから、一般論としては取捨選択をした上での整合を図っている、というお答えとなりますが、わかりづらい部分はあろうかと思しますので、改めて状況等はまとめ、HP 等でお伝えしていけるように検討したいと考えています。

実際にはこのビジョンをどう実現していけるか、だと認識しています。このため、現時点でのビジョンの推進方法について、38～39 ページに追記いたしました。市役所のみならず市民・団体・企業の皆様と取り組みたいと考えておりますので、引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

16-③

素案 P35 は市役所に対する視点となります。市役所ではビジョンを受けてこうした考えの下、取り組みを検討していく、というものです。また、ビジョンに記載

また 29 個は多すぎる。7~8個(2020 プランまちづくりの7柱を参照) 16-⑤

5. 職員の声は 2010, 2020 プランでのまちづくりの柱「参画と協働のまち」の取りくみが有効に行えなかったことを表しており、2030 においても重点課題とすべきと考えます。 16-⑥

6, 2020 プランの基本構想(序章、第 1 章)に相当する下記は確実に入れるべきと考えます。

- ・ビジョンを入れた理由
- ・構想・計画の特徴とねらい
- ・まちづくりの基本方針 / 各戦略・各総合計画・個別計画との関係
- ・構想・計画の進行管理 16-⑦

7. p20~p33は添付資料としてまとめた方がよい。

最上位総合計画 2030 ビジョンとして何を目標しているか理解しやすい。 16-⑧

してある内容は市役所と市民のみならず、多くのパートナーとの連携が必要であると認識しています。

16-④

繰り返しとなりますが、現実的にさまざまな参加・参画・協働の形があることを受け止める必要があると考えています。また、ご指摘の参画の形は、行政活動や地域活動の分野が広がり、専門的になるにつれ難度が増し、担い手の問題があるものと思料します。地域団体なども同様の課題があるものと考えます。ご指摘のものを否定するものではありませんが、やはり現実的にステップバイステップで考えていく必要があるのではと存じます。

16-⑤

ご指摘の意図は大変理解します。ですが、個別化する TO-BE の「多い・少ない」を客観的に判断するのは難しいと考えます。なお、これまでの基本計画については、日野市役所の部単位の柱となっていました。こちらに関しては行政のまちづくり計画とう前提があるからだと認識しております。また、縦割りによる弊害があること、なども指摘されており、変化させていく必要はあると考えておりました。

ただし、使っていくような場面においては、ご指摘の通り方向付けをしていく必要もあると考えています。そのため、コンセプトブックでは内容をより整理して A3 両面のコンパクトにまとめるようにいたしました。

16-⑥

概ねご指摘の通りかと思いますが、さまざまな参加・参画・協働の形が多様化するにあたって求められる資質も変化すると考えます。

16-⑦

おおむね既存の文面にある内容かと存じますが、「内容を整理した方がよい」という意図もあろうかと推察いたしました。コンセプトブックでは内容をより整理して A3 両面のコンパクトにまとめるようにしておりますので、一旦受け止めさせていただきます、そちらで対応させていただければと存じます。

16-⑧

ご指摘の通り、添付資料(あるいは資料編)として扱うか否かについては議論がありました。

9 月以降に得ていった意見を 10 月以降に中間とりまとめとしてまとめていきました。こうした時に、世の中の社会課題を見渡した時に一つの分野のみで解決するものは少ないのではないかと、平均的にまとめようとする全体性を失うのではないかと議論がタウンミーティングや事務局の中でありました。

また、ヒノタネミーティングに参加された方は、ビジョンをつくるために参加された方ばかりではありません。まちの未来を考えることを通じて自分の将来を考えたい、仲間をつくりたい、学びたい、といった個人的な理由の方も多かったですと記憶しています。

まちは個人があって成り立つものと考えます。そのため、その時点の個人がどうであったかを残し、場に参加できなかった方も後から考えていけるようにすることがビジョンの趣旨に沿うのではないかと考え、ここでは基本的には原文ママで残す、全体をドキュメントとして残すという選択をいたしました。

17-①

ご提案いただいた社会教育・生涯教育の分野は、まだ多くの価値があると考えています。それらをうまく生かしていくこともまちが自分ごとになるポイントになのだなと感じます。また、進め方もあるものと感じています。このため、新たに P.38、39 を作成いたしました。

未来への思い(タネ)を持っていない、または持っていることに気づけていない

17 「しあわせのタネを育てあう日野」というイメージは分かりやすく、事業の継続性を感じさせる。緑と清流という日野の自然、環境に重きを置く日野市の姿勢を象徴している。
また、行政の縦割り体制を前面に出さず、市民の今から導き出した新しいビジョンであることは、策定にかかわった方々のエネルギーとご苦勞の賜物であると拝察する。

P.38、39
コンセプトブック
(別途作成)
マンガ版(別途作成)

①17P 以降の「個人がそれぞれのタネを持ちそれを開花させながら育ちあう」というコンセプトは分かりやすい。この考え方は「世界に一つだけの花」に通ずる「誰もが良いところがある。ありのままでよい」という【人と比べるのではなく、個々人の良さを認めながら生きていこう】という人権主義的な考え方を基盤にしていると思うが、「持っているタネに気が付かない人」「タネを持っていないと思っている人」「タネを持たない(と思っている)人」はどうしたらよいのかという疑問が残る。現代の若者、その他の人々は「自分がどのような希望(タネ)を持っているのかわからない」人、「何のために生きているのかわからない」人も多く、「しあわせのタネを育て合う日野」というコンセプトは空疎なもととして受け取られないか…。自己覚知が出来ていない人に、自分が持っている「タネ」を気づかせる市の仕組みも必要だろう。例えば、図書館の活用である。図書館の蔵書、イベント、施設の充実を図る。今は許可されていないが、図書館内のカフェで何気ない機会にタネについて話し合うなど。身近な日野市の社会資源を充実させ、活用していく必要があるのではないか。このビジョンが社会資源の充実や活用のしかたにも言及されているとよい。17-①

最近はまだあまり言われないが、日野市はかつて「藝術と文化の薫るまち」というキャッチフレーズがあった。タネを育むには、まちのなかに刺激がある、芸術など知的な刺激で満ち溢れていることも必要ではないかと思う。

タネを見つけ種を育てるには豊かな土壌と適切な肥料と、手をかける「ひと」が必須である。

このような視点がこのプランからは見えてこないのが残念である。苦言的に言えば、個人の希望はたくさん收拾されているが、それをどういう方向に向けたいのかが明確でなく、もう一段レベルアップするためのより具体的な行動計画が見えてくるとよい。行動方針の文言も市民として何をしていけば良いのかがわかりにくい。

以上のように、タネを育むと言う個人を大切にしている方向性は前面に出ているが、実際に育む方法やバックグラウンドが感じられないのは大変残念である。17-②

方に対して本ビジョンがどのように映るのかという視点は、今後本ビジョンを地域に浸透させていく取組みを進める中でも重要であると認識しています。

実際に「タネ」を育むための方法を示す手段として、本ビジョンを通じて行動変容を促すための「コンセプトブック」や、主に中学生前後の若い世代をメインターゲットに、読んだ方が行動変容の一步目を踏み出すきっかけとなることを狙った内容となっている「マンガ版(仮)」を制作しております。これらは、自身の持つ「タネ」と向き合う機会が無かった方や、「タネ」を持っていない方にとっても気づきのきっかけとなり得るものと考えています。これらに加え、令和5年度以降に計画しているワークショップ形式での取組みや、ご提案にある図書館をはじめとした社会資源の活用も含め、本ビジョンを地域に広く共有していく方法を検討して参ります。

また、本ビジョンを基に行政として進めていく取組みについては、素案 P38 にお示した通り、本ビジョンを勘案した総合戦略を設定し、その戦略に基づいた横断的プロジェクトや個別計画、個別事業を進めていくことで、実施して参ります。

17-②

行動指針のそれぞれを単体で見た場合に日野市独自の内容が読み取れないというご指摘ですが、本ビジョンでお示している5つの行動指針は、各々単体で日野らしさを表現するものではなく、5つ全てが組み合わせることで新たな日野らしさが見えてくることを企図して設定しています。そのうえで、シャープさをどう出していくかは悩んでいる部分であり、今後、変更していく可能性もあると考えています。

また、日野市が継続するための量と質についてのご指摘に関しては、それらを保つための方策も検討していく必要がある一方で、地域を取り巻く社会・環境の大きな変化が予想される中、例えば人口は徐々に減少していくことが予測されています。こうした変化を肯定的に捉え、その中で持続可能でウェルビーイング

②p34 に未来ビジョンの概念図が示されている。このページが全体像を把握するうえで一番わかりやすいページであり、ビジョンを市民に知らせるページとなっている。

然しながら、ここで改めて行動指針を見ると、「日野市でなければできない行動指針」というものがない。

私たちは NPO として「日野市」の継続性のありかたを勝手に考えている。

「日野市が継続する」には、量と質が重要だ。例えば、量でいえば、市の人口、歳入、適正な歳出など…。質はこのビジョンにあるような文化であり、ひとの知的財産、ネットワークなどだろう。未来ビジョン「しあわせのタネを育てる…」を実現するには日野市の量と質の確保が欠かせない。

最近、親の転勤でシンガポールに 5 年間行くことになった中学 3 年の子ども(女性)に会った。

そこで、彼女が言うのは「私はもう日本に帰って来ないかもしれない。シンガポールでインターナショナルスクールに入学して 3 年たったら、アメリカかヨーロッパの大学に行く。そのままそこに住んじゃうかもしれない」

その子どもは、小学校の後半半分をアメリカの現地校で過ごしたこともあり、英語には堪能で、日本に帰ってきてからの中学生活の窮屈さには辟易していると言っていた。コロナで中学時代はマスク生活、修学旅行など学校行事も中止されていた。

この子どもが、もう日本には帰って来ないかもしれないと言った理由は何か。言わせた原因は日本のどこにあるのか。

私たちは、日野市在住の子どもたちが今後も居住地として選んでもらうことや市外からの日野への移住者を増やし、日野市に活気を取り戻したいと活動している。

長年、ひのまちづくり市民フェアで掲げている「日野市に住み続けたいまちづくり」というテーマは、地域未来ビジョンしあわせのタネを育てあう日野と並行して標榜すべき目標であろう。タネを育て合うことと同時に、日野市の基盤をしっかりと据えていくことも大切だろうと考えるからである。(この辺りは市の方々は百もご承

グを実感できる日野地域を実現していくためにも、異なるものがつながりあい、大きな力を生み出していくことが今以上に求められて参ります。

こうした観点から、これからの諸力融合を考える際に、自治体や国といった枠にとらわれずに考えるべきであるというご提案も参考にさせていただき、施策を検討して参ります。

17-③

ご指摘のグローバルに関する直接的な記載がないと気づきました。

日野はグローバルの中にあると同時に、日野の人もダイナミックにグローバルに関わっていくことができるのが SDGs の時代の考え方だと存じます。身近な地域が大きな世界への窓にも、またその逆ともなります。現役世代や子ども世代はおそらくそうしたことに感度が高い方も多くいらっしゃるのだと感じています。

このあたりについては再検討し、現時点でのビジョンの推進方法についてという内容で 38 ページに追記いたしました。

ビジョンを実現していく、それ自体は当然難しいのですが、その分、さまざまな関わり方の可能性(関わりしろ)があるものと考えています。タネを見つける会議や実際に植樹などをしていてもよいかもしれません。だからこそ、市役所のみならず市民・団体・企業の皆様と取り組みたいと考えております。

成長していくというお言葉に非常に勇気づけられます。私どもも共に成長していけるように努めてまいります。

引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

知と知りつつも、敢えてご提案する)

また、大坪市長は日野市のまちづくりへの考え方に「諸力融合」を提案された。このビジョンでもキーワードになっている。私たちは諸力融合の幅を、日本中に、世界中に幅を広げて取り組んでいってはどうかと考えている。諸力融合のリソースを世界に求めていくという意味である。

日野市内の諸力融合の素地は、大坪市長の二期の在任期間の間にできている。あとは、実際に諸力融合の行動と結果を市民に示す段階であると思う。

未来ビジョンを考えると、日野市の今後を考えると、諸力融合は市境、県境を超えることはもちろん、海を越えて諸国との融合を図って欲しい。

グローバル社会と言われて久しいが、先の中学生の例にも見られるように、子どもたちはすでに世界を見据えている。この子どもたちが、世界で堂々と自己実現し、獲得したものを日野市に還元したいと思わせるグローバルなまちづくりが必要だ。繰り返しになるが、そのためには日野市の魅力をグローバルなものにする。世界から日野市に住みたい、活動してみたいと思わせるような、(よく言われていた日野らしさではない)「これが日野だ!」と誇れる「日野市のタネ」が欲しい。

今回のビジョンが、「日野のタネ」を模索し実現するスタートであることを望み、私たちもその一端を担える市内の NPO 法人として成長していくことをお約束したい。

17-③

18 表記の素案に目を通して気になった点を以下に記述しましたのでご検討をお願いします。

過去においても市制施行 50 年の時に作られた「Hino Vision50 日野曼荼羅」がありましたが、これがその後どう展開され、どのような結果を出したのか寡聞にして分かりません。ビジョンにしる、計画にしる、実行して成果を出すことに意味がありますので、これからの実行・実績を期待しています。 18-①

1. 全体の構成について

18-①、18-⑥

ご指摘の通り、実際にはこのビジョンをどう実現していけるか、だと認識しています。このため、現時点でのビジョンの推進方法について、38~39 ページに追記いたしました。市役所のみならず市民・団体・企業の皆様と取り組みたいと考えておりますので、引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

18-②

ご指摘の通り、図をどこに配置すべきか議論ポイントであると認識しています。今回のビジョンの結論だけを先に伝えた場合、第一印象で捉えられる可能性も

P.38、39

コンセプトブック
(別途作成)

P.5、P.19

①全体を通して読んで、ビジョン 2030 はこれだと簡潔に、或いは集約的に表現されたものが無く、その提示が欲しい。それに類するのが多分 P34 の図だと思うのだが、そうならばこれをもっと前に掲載した方が分かり易い印象に残る。例えば「2 章ビジョンができるまで」の前、或いは「3 章現状把握(As-Is)」の前にする。その後には 2 章或いは 3 章以下を載せ、そう決まった経過の説明文とする。今のままだとあまりにも前段が長すぎる 18-②

②目次が欲しい(最終版には付くのだろうか) 18-③

2. 文章の内容に関して

①P5 の②項の下から 2 行目に、「……問いを考える際のヒントを行動指針として……」とあるが、行動指針は問いを考える際のヒントではなく、問いに対する答えを考えるためのヒントだと思う。P22 の③項にも同じ表現がある 18-④

②P34 のビジョン 2030 について

ありがたい姿(花)として 29 項目が掲示されているが、途中経過として出すのはいいが、ビジョンとして表現するには多すぎる。核となる項目 5, 6 項目に絞るか、統合すべきだ 18-⑤

3. 今後の展開について

今回提示の素案には、ビジョン 2030 の今後の展開について具体的記述がないが、P5 の③に「……本ビジョンに基づいた戦略を定めるとともに、……」とあるので、何かの戦略を新たに作る想定かも知れないが、それは必要ない。既にある「日野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」や「日野市第 2 期 SDGs 未来都市計画」或いは「主要 3 戦略」を確実に遂行していけば十分である。但し、今回策定されるビジョン 2030 の内容にそぐわない内容があれば修正する必要はある。

計画は作った時点で良くても、予測していなかった状況変化に際しては柔軟に見直

あります。できるだけ正しく伝える必要があるものと認識し、総括するような位置づけとしてページ割をいたしました。

一方でご指摘の意図については理解しました。本文は変えないとした場合、データでの公開といたしますので、実際に目に触れるまでの導線を踏まえ、HP でアイキャッチの画像として貼り付けて目に触れる形をとるのがよいかと考えています。そのうえで、やはり前の方に、というご意見が多いようでしたら適宜変更させていただきたいと存じます。

18-③

紙媒体での印刷は想定していないこともあり、データを開いた際に現れる表紙及び表紙の次のページが重要だと考えています。行政計画によくあるレイアウトを一旦廃すること、まずイメージをお伝えすることが優先されると考えました。そのため、目次は作成しておりませんが、やはり目次がないと、というご意見が多いようでしたら適宜変更させていただきたいと存じます。

18-④

ここでいう問いとは、答えが決まっている「問い」というよりも、答えが出にくいもの、前に進みづらいものを問い直し、考え続けるためのきっかけ(問いかけ)、という意味でご説明しています。そして問いを考え、自分にできることをアクションとして起こしていく際に行動指針を使っていくというイメージです。

例えば、咲かせたい花を見て、多世代の場をつくろうとした時に、「多様な関わりあい生まれるにはどうしたらよieldろうか」という問いがあるとしします。「ごちゃまぜの場が増えていくとよいのでは」という行動指針をヒントに、「これまでと声をかけていなかった違う分野の人を呼んでみよう」というアクション(=タネ)が生まれていきます。このアクションは答えではありませんが、考えるだけでなく問いかけに対して行動していくというニュアンスを多く含んでいます。そのため、ご指摘を参考表現を以下の通り改めます。

す必要があり、まさしく P5 の①項にある、「……変化や脅威、社会の要請に応じてしなやかに対応していく必要があります。」の通りである。18-⑥

P.5 「問いとアクションを考える際のヒントを行動指針として」
P.19 「問いとアクションを考える際のヒントとして行動指針を」

18-⑤

ご指摘の意図は大変理解します。ですが、個別化する TO-BE の「多い・少ない」を客観的に判断するのは難しいと考えます。なお、これまでの基本計画については、日野市役所の部単位の柱となっていました。こちらに関しては行政のまちづくり計画とう前提があるからだと認識しております。また、縦割りによる弊害があること、なども指摘されており、変化させていく必要はあると考えておりました。

ただし、使っていくような場面においては、ご指摘の通り方向付けをしていく必要もあると考えています。そのため、コンセプトブックでは内容をより整理して A3 両面のコンパクトにまとめるようにいたしました。

19-①、19-②

ご賛同ありがとうございます。
また、企業さまにとっては、ビジョンをこうした使い方(意思表示など)もできるものと非常に参考になりました。
こうした視点から、ありがたい姿と SDGs との関連性を見ていく必要もあるものと感じました。一旦、P.38 のように整理させていただきながら、引き続き検討をしてみたいと思います。

P.38

地球温暖化などの影響による災害の頻発化・激甚化が進むことは、日野地域だけの問題ではなく、文字通り地球規模で未来の姿に大きな影響を及ぼします。対応策だけでなく、緩和策も踏まえて文字通り全方的に取り組んでいく必要があると認識しています。そのため、本ビジョンとは少し異なりますが、日野市では気候市民会議を進めてまいります。ぜひ、そうしたところでもご知見などをいただけましたら幸いです。

19 ■柱5 自然と調和した環境に優しいまち

この 10 年間で～気候非常事態宣言を行いました。

■柱6 安全で安心して暮らせるまち

地球温暖化などの影響により～状況が深刻化しました。

<意見1>

気候変動問題への解決に向けた『取り組みが必要』である事や、自然災害や大規模災害が地域社会・経済に『深刻な影響を与えている』という現状に対する考え方に賛同いたします。

≪意見≫

巨大地震や気候変動に伴う災害リスクの増大への対応は重要性を増しております。特にこれまで経験したことがなかった威力・規模の台風や豪雨の襲来等、風水害に伴う大規模な停電に対する備えは急務になっており、多発する風水害等を踏まえ、停電の影響緩和策として自家発電・蓄電池・省電力等の導入支援や再エネ等の地域における利活用促進・安全対策を推進する必要があります。

環境にやさしいまちづくりには、エネルギーの地産地消と併せてコージェネレーションシステムを含む自立分散型エネルギーの導入も必要不可欠と考えます。再生可能エネルギーは環境にやさしい自然エネルギーであり、利用促進を図る必要がありますが、天候等で出力が変動するエネルギーです。

再生可能エネルギーとの親和性の高いコージェネレーションシステムを含む自立分散型の発電設備は、電気・熱を効率的に利用できるだけでなく、再生可能エネルギーの導入促進、電力系統への貢献、レジリエンスの向上、都市開発への貢献など様々な価値を有しており、国の各種施策においても重要な位置づけにあるため、地球環境にやさしいエネルギー利用の推進に貢献するものと考えます。

気候変動がもたらす影響が深刻さを増す中で、「持続可能な開発目標(SDGs)」を推進していくためには、ゼロカーボン推進策とまちづくり強靱策の課題解決に向けた目標を同時に検討する必要があります。そのためには、停電対応型省エネルギー機器等の導入により、レジリエンス強化対策を図った上で、創エネルギー機器の導入を検討するというステップが重要だと考えます。

(関連する技術の紹介)

停電時に自立運転可能なタイプの空調機(停電対応型 GHP)があります。停電対応型 GHP は、停電時に室内の個別空調を継続しつつ、あらかじめ選択した照明・テレビ等の電気機器への給電が可能のため、屋内運動場などの避難所の防災機能向上を図ることができます。

停電時の影響を緩和するために自家発・省電力設備を導入することは、資源エネルギー庁「エネルギー基本計画策定後の動向と今後の対応の方向性について」(平成30年12月27日)でも言及されています。[19-①](#)

(実現したい価値観・未来像)

しあわせのタネを育てあう日野

(ありがたい姿＝未来に咲かせたい花)

1~29

日野市においても、気候変動問題は市民、事業者、団体、行政などすべての主体に関係する課題として認識したうえで、行政としての取組みを強化してまいります。引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

<意見2>

実現したい未来像や大切にしたい価値観を表すものとして示されている「しあわせのタネを育てあう日野」が未来に花を咲かせることに賛同します。

<<意見>>

近年、各地で大地震だけでなく、これまで経験のない威力を増した台風や豪雨の襲来に伴う、大規模で長期の停電が発生しています。

長期の停電時においては、防災機能を維持し、避難所での良好な生活環境を確保するとともに、どのような状況にも対応できる備えが必要と考えます。

一方、2020年菅前首相の「2050年カーボンニュートラル宣言」以降、国内でも脱炭素化に向けた動きが加速しています。事業活動に伴う脱炭素化に向けた取組みは重要な課題になっており、経済産業省が発表した「第6次エネルギー基本計画」では、2030年に温室効果ガスの対2013年度比46%削減、そして2050年のカーボンニュートラル実現に向けたエネルギー政策の大きな方向性が示されました。

当社はエネルギー事業者として、これまで天然ガス・高効率エネルギーシステムの普及拡大等、事業活動を通じた省エネ・脱炭素化社会の実現に向け、技術革新や創意工夫を重ねることで豊かな暮らしと環境に優しい社会づくりへの貢献に尽力してまいりました。今後も、「より強靱な都市機能」と「CO2 ネット・ゼロの未来」実現に貢献し、日野市の皆様と協働しながらエネルギー事業者としての役割を果たして参りたいと考えております。[19-②](#)

20 今までと違う基本構想の流れや発想であることはわかった。これからこういったことを共有していきたいかイメージは伝わった。
 庁内での伝え方、共通認識をどうつくっていくかが課題では。職員の変化、波及。このビジョンは職員への共通認識になっているのか？ [20-①](#)

[20-①](#)

プロジェクトに関わった職員にはまずは報告、共有しています。今後、庁内説明会なども実施してまいります。こうした現時点の進め方については新たにページを作成いたしました。
 第4次や第5次の基本構想・基本計画の際も同様ですが、新しい概念になるかとは思いますが、現実的には少々お時間いただくことになるかと認識しています。

P.38、39

- 21 miro、YouTube、拝見した。市役所のものから市民のものになった感じがする。プロセスを変えてさまざまな方が使えるようにしようとしたことはわかった。ポイントは市民の皆さんや企業とどう関わるか。市民や企業の巻き込み、どうしていくか。「私が何ができるか」を考えていくことが重要だと思うが、そのために、現状で考えている仕掛けはあるのか？ [21-①](#)
- P.38、39
- 21-① 令和 5 年度からはビジョンを使っていく取り組みを予定しています。結果ややったことを持ち寄り、そこで発表するようなイメージをしています。まずは、市役所が先導するのが重要。例えば、プラスチックスマート宣言の際もそうですが自分達が変わっていくことが大事だと考えています。職員ミーティングの際には 2030 年に向けて変えていきたいという職員の声もあったので、そうした声を捉えていくのにも使っていきます。こうした現時点の進め方については新たにページを作成いたしました。
- 21-② 結果だけでなく、やり方についても庁内周知し、興味を持った職員には積極的にノウハウを伝えていきたいと考えています。具体的には職員向けのミーティングでも miro を使った際、複数の課からやり方を教えてほしい、という問い合わせがありました。足元から広げていきたいと考えています。
- 22 ビジョンの内容が複雑だ。いかに多くの方に共有できるか、言葉遣いなどを工夫してもらいたい。 [22-①](#)
- P.38、39
- 22-① ご意見として承りました。全体的に言葉等は検討してまいりますが、まずはコンセプトブックで内容をより整理して A3 両面のコンパクトにまとめるようにいたしました。
- また、並行して財政再建計画を策定しているがどう関連していくのか？財政再建を着実にしっかり進めていくことが大事ではないか。ビジョンでの政策的経費は具体的にいくら予定しているのか。 [22-②](#)
- 22-② ビジョンと財政再建は持続可能性という点で矛盾しないかと考えます。また、ビジョンでは個別の事業を直接位置付けるものではなく、戦略等に基づくものとして整理しています。総合戦略の内容も多少見直していく必要はあり、政策的経費は R6 年度予算編成時に検討していきます。こうした現時点の進め方については新たにページを作成いたしました。
- 4,800 の声とのことだが、187,000 人いる。参加者は数字など見せ方を工夫し、今後も広がっていくことを意識してほしい。 [22-③](#)
- 22-③

ご意見として承りました。市民、事業者、団体、行政などすべての主体に関する課題として認識したうえで、行政としての取組みを強化してまいります。引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

23 比較的平易な言葉で書かれており、行政用語が少ないなど今までと違うことは理解できる。他方で一般的すぎて行政が何をやっていくのかがわかりにくい。行政ではどうやって PDCA を回していくのか。 23-①

P.38、39

23-①

市役所向けには「市役所のやるべきことが変わる」ということを考え方とあわせて宣言し、変化を求めています。また、フォローアップをしていくこと、レビューをしていくが必要だと認識しています。今後ビジョンを浸透させる・ビジョンを活用するプロセスの中での対話や、これからの社会・環境の変化を踏まえ、ビジョンに示している内容(ありたい姿＝未来に咲かせたい花、問い、行動指針など)が追加修正されていくことも想定しています。また、本ビジョンを踏まえて改訂を予定している総合戦略において設定される KPI(重要業績評価指標)の達成度は、観測および評価の対象となっております。

このあたりについては再検討し、現時点でのビジョンの推進方法についてという内容で 38～39 ページに追記いたしました。

ビジョンには SDGs を取り込んだものになると聞いていたが、SDGs はどう関連するのか。 23-②

23-②

SDGs の趣旨に基づき、考え方(5つの P:市民・民間セクターとの協働・パートナーシップなど)はかなり取り入れています。また、ありたい姿と SDGs との関連性を見ていく必要もあるものと感じました。また、日野はグローバルの中にあると同時に、日野の人もダイナミックにグローバルに関わっていくことができるのが SDGs の時代の考え方だと存じます。一旦、P.38 のように整理させていただきながら、引き続き検討をまいります。

24 これまでよりも限られた人に向けた取組みをしている。
ここに乗っかれない人達への対応、パブコメで行政とは意見が異なる人が出てきたらどう受け止めるのか？ 24-①

P.38、39

24-①

ミーティング参加者だけでなく、広報・LINE などを使いながら多くの方に呼び掛けて実施しており、参加人数はこれまでの計画策定よりも多いのではと考えています。意見や思いはさまざまだと考えています。行政として受け止められる

2020 の総括と現状を分析し、反省に基づいてつくりだされていない。 24-①

ものは受け止め、適切に対応していきたいと考えています。

24-②

ビジョン本文でも 2020 を総括しています。また、9 月 25 日のキックオフイベントから、第5次基本構想・基本計画の 7 つの柱にこれから重要であると思われる視点を掛け合わせたもの、ビジョンの議論のきっかけとなる資料を提示した上で検討を開始しました。これらを踏まえた上での花や行動指針となっており、miro や YouTube においてその経緯は残していることから、一般論としては取捨選択をした上での整合を図っている、というお答えとなりますが、わかりづらい部分はあろうかと思しますので、改めて状況等はまとめ、HP 等でお伝えしていけるように検討したいと考えています。

実際にはこのビジョンをどう実現していけるか、だと認識しています。このため、現時点でのビジョンの推進方法について、38～39 ページに追記いたしました。市役所のみならず市民・団体・企業の皆様と取り組みたいと考えておりますので、引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

25 持続可能な地域づくりなど今までも同じ。馬場市長も横串だと言っていた。PDC A、反省の元にこういうものをつくって欲しい。ひのスポはクラブチームに委託するのかもしれないが、部活ができりゃいいってもんじゃない。色んな声を聞いて。 25-①

25-①

ご意見として承りました。個人の変化が最も難しい中では、関係者間を緩やかにつないでいく、結っていくような仕掛け方をしている取り組みが市内外でも増えてきています。使われている言葉は同じかもしれないが、取り組み方は少しずつ変わってきています。こうした認識をビジョンのみならず、市政の中でも捉え続けていきたいと考えています。職員向けの説明資料などにはうまく落としたらと考えています。

26 職員 MTG は会計年度任用職員も入っているのか？ 26-①

26-①

note について

関連する取り組みとして note は注目されていると思うが、その理由などは分析しているか？ 26-②

会計年度任用職員はおりません。全庁向けに公募したが応募はありませんでした。市民向けのタウンミーティングでは職業などは聞いておりませんので、そちらについて参加があったかは不明です。

26-②

note は興味がありそうな層に向けて LINE や Facebook なども含めて周知した結果だと捉えています。投稿する時間などでもできる範囲で分析(note 本体のダッシュボード機能を活用)し、投稿の仕方に活かしています。

27-①

ご意見として承知いたしました。以下のように考えております。

メッセージをどう見せるか、については、他事例を参考にしていこうと考えています。例えば、多摩地域においてもシティセールスとしてキャッチコピーやロゴマークを作成している地域はあります。おおむね、地域外の人を呼び込むため(=アウトターの視点)、地域内の人と地域における資本・資源などを再認識するため(=インナー的視点)の2つに分かれるものと考えています。今回の「しあわせのタネを育て合う日野」については、インナー的視点ではありますが、行政における総合計画等におけるスローガンなどとは少し異なり、ストーリー性が高いメッセージかと思います。そのため、仮に地域外の方にお伝えする取り組みを行う場合は、メッセージの背景などを丁寧に出していく必要があるものと認識しています。

後段の市制施行 60 周年の取り組みは、本ビジョン関連経費において直接的な事業実施を行うものではありませんが、未来志向型の取り組みという視点では一致しており、連携して行っていきます。詳細については今後の 60 周年事業の実施において明らかにさせていただければと思いますが、例えば、記念誌作成時にビジョンの内容を使った企画を行うなどが考えられます。

27 ミーティングでの意見は反映されていると感じた。メッセージの出し方も今回大事だと思うので、駅貼り広告などのペイドメディアなどを活用し、日野の外にいる方に伝えていくことも考えられるのではないかと。60 周年にうまくつなげてほしい。 27-①

市制施行 60 周年について(別途対応)

Live!アンケートへの書き込み及びいいね数

NO.	本文	いいね数	ご回答	関連ページ
28	<p>皆さんの意見を集約するのに色々な方法があるんですね。参考になります。</p> <p>パブリックコメント募集！と言われると何だかかきこまってしまうですが、これなら気軽に投稿できそうです。 28-①</p>	13	<p>28-①</p> <p>ご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。</p> <p>元々、事務局では本ビジョンは動的なものである、という考えおりましたが、実際に策定プロセスにおいて多くの方と意見を交わすと「参加したいと思った時に参加できること(=アクセス性)」の関心が想像以上にあると感じました。そのため、「参加」だけでなく「意見の表明」にも多様性が必要だと考えました。これらは市政だけでなく、さまざまな現場においても同様のニーズがあるとは思いますが、まずは本ビジョンのパブリックコメントにおいて、より気軽に意見やリアクションを寄せていただけるよう、試行的にこのようなツールを導入いたしました。</p> <p>また、「いいね」の数で一定程度、同様のご要望はあるものと認識しました。現状の本市におけるパブリックコメントは、オンラインツールを使う想定はされていません。手法により一長一短があるため、対応可能かは現時点では判断できませんが、担当にも状況を伝えた上で、検討可能か働きかけていきたいと考えています。</p>	意見の表明方法について(別途対応)
29	<p>とりまとめお疲れ様です。色々な市民の方の想いや意見がこのビジョンに詰まっていると理解しています。 29-①</p> <p>このビジョンは市の総合計画の中の基本構想基本計画で言えば基本構想に部分にあたると思いますが、2020年で止まっている現状の基本構想・計画とどのように整合を図っていくのでしょうか？ 29-②</p>	8	<p>29-①</p> <p>24 ページ～33 ページには、ヒノタネプロジェクトで得られた市民・職員個人の思いを記載しています。ビジョン策定においては、市民・企業・団体から4,200件の声をいただきました。</p> <p>29-②</p> <p>まず、補足的な説明をさせていただきます。</p> <p>本ビジョンは本来、日野市第5次基本構想・基本計画の終了年次と合わせて2020年度に策定する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症に予算・人員を集中するという判断の下、策定を見送った経緯があります。なお、策定</p>	P.38、39

見送りと同時に第5次基本構想・基本計画は延伸するという決定をしています。自治体における「基本構想」の策定義務は 2011 年の地方自治法の改正においてなくなっていることから、基本構想とビジョンの法的な位置づけは全く同じものではないかもしれませんが、上記の理由から機能としての切れ目はない、という認識です。いずれもこれまでの計画行政にはない例外的な判断だと認識していますが、コロナ禍の影響を織り込む必要もあったための判断となります。

理念やビジョンといった正解がない不定形のを更新しようとするときには、以前と現在が地続きであることを唯一の前提に考え始めるのではなく、「なぜそう感じるのか」を多面的に捉え直す作業が大切だと考えています。第5次基本構想・基本計画の策定から 12 年間という年数が過ぎていたことから、まずは以前の「構想」の背景にある価値観や社会の前提に対して、今の私たち自身がどう捉えるのかを明らかにする必要性がありました。

そのため、9 月 25 日のキックオフイベントから、第5次基本構想・基本計画の 7 つの柱にこれから重要であると思われる視点を掛け合わせたもの、ビジョンの議論のきっかけとなる資料を提示した上で検討を開始しました。これらを踏まえた上での花や行動指針となっており、miro や YouTube においてその経緯は残していることから、一般論としては取捨選択をした上での整合を図っている、というお答えとなりますが、わかりづらい部分はあろうかと思しますので、改めて状況等はまとめ、HP 等でお伝えしていけるように検討したいと考えています。

実際にはこのビジョンをどう実現していけるか、だと認識しています。このため、現時点でのビジョンの推進方法について、38～39 ページに追記いたしました。市役所のみならず市民・団体・企業の皆様と取り組みたいと考えておりますので、引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

30 すこし古い話で恐縮ですが…、かつて多摩テックがあった頃、一番橋から、多摩丘陵に垣間見える”観覧車”を望むと、日野市に住むハッピーを感じました。
あの光景をもう一度！ 広大で緑豊かな敷地の再開発に、市はコミットしているのでしょうか？(貴重な資源だと思います) 30-①

す。

30-①
多摩テックの件、共感いたします。特に多摩丘陵と台地に挟まれる沖積地(浅川沿い)からは見上げる形となり、印象深い景色でした。若い職員(20代)には全くと言っていいほど通じなくなっていることから月日の速さを感じます。

一方で現実的に再整備する場合は(観覧車でないにせよ)多額の整備費用がかかることが想定されます。また、郊外型の遊園地が成り立たなくなっている状況でもあり、他地域においても遊園地などは利用転換がされています。(埼玉県朝霞市にあった朝霞テックなども同様の課題があったものと思料します。)

その上で、多摩テックの跡地については市街化調整区域であり、大学等の教育施設であれば土地利用ができるという地区計画を策定しています。日野市としては、周辺住民の方の理解を得た上で、地区計画を定めていることもあって、土地所有者に対して、今後も地区計画に沿った土地利用を要請しています。引き続き、土地所有者からの報告等を受けながら、社会や地域にとってもよい土地利用がされていけるよう努力していきます。

31 ビジョンを具体的な動きにするために、市民を巻き込んで市民主体でアクションプランやモデル事例をつくって行く必要があると思います。 31-①

また、やりっぱなしになるのではなく、既存の取組も含めビジョンの達成にどのような影響を生み出しているのかを適切に評価(中期・長期だけでなく短期でも)していかないとビジョンは意識されないし、形骸化するだけだと思います。 31-②

31-① P.38、39

市民、事業者、団体の方々に対し、ビジョンの浸透を図る取り組みを実施する予定です。また、本ビジョンをきっかけとして新たに行動を起こしたり、いま進めている取組をよりよい形にしたという方にそのアクションの内容を投稿していただき、しあわせのタネを育てあうアクションの例として公開できるような仕組みを構築する予定となっております。

31-②
実際にはこのビジョンをどう実現していけるか、だと認識しています。この

ため、現時点でのビジョンの推進方法について、38～39 ページに追記いたしました。ご記載のモデル事例なども、推進の初期段階で市役所が行うだけでなく、市民・団体・企業の皆様と取り組みたいと考えておりますので、引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

32-①

温かい言葉をありがとうございます。

本ビジョンは日野市に関わる人に、手に取ってもらい、使っていただくものにしたという想いからビジョンの開発を進めてきました。また、「タイプ(タイムパフォーマンス)」に代表されるように、個人の可処分時間が限定されていく流れがある中で、貴重なお時間を割いてご一読いただく、というハードルが非常に高くなっていることを日々の業務においても感じていました。上記2点の理由から今回はこのような作り方をしています。

一方で、今後もこの形を踏襲すべきかは次の世代に委ねるべきと考えています。今回(2022年→2030年)の時間軸は、過去100年から見ても転換点に差し掛かっているという認識から、次の10年の方向性をどう考えるか、そのための前提とは何か、という視点が強いものになったかと思いません。しかし、次の10年はまた違う形かもしれません。市役所がすべき仕事や役割も変わっていると思いますし、変わる必要もありますが、その時点でそこにいる人たちが何をしていくかを決めていかなければなりません。

そのため、市役所においても、次世代がレビューして判断できるように、経過がどうだったのか、反省点はどこかなどを引き継ぐ準備を進めています。また、本ビジョンの今後について、私どもとしては、日々の暮らしにおいて使っていただき、暮らしをより豊かにするものとして活用していただければと考えています。そうしたことも含めて、行く末がどうなっていくか、引き続き見守っていただけましたら幸いです。

33-①

32 まるで一つの大きな公園みたい…たまびらの引用から始まっているこの 3
ビジョンが指し示すものは、自身、家族、地域、企業、など、それぞれが思い描く、「未来のありたい姿」、そして「未来への問い」であり、その問いへの答えを求め一歩を踏み出す。まるで小説を読んでいるような気分で、計画を読んでいるのを忘れてしまうほどでした。ストーリー性をすごく感じるとともに、これを作り上げた担当者の思慮深さにとても感銘を受けました。今回のビジョンは、地域の声に耳を傾け、その過程も含め、秀逸な準備がされており、時間かけて、策定してきたんだと伝わる内容でした。市役所が示さなければならないのは、誰も読まないが厚い冊子ではなく、こうしたいという強い思いである、ような気がします。今回はその思い、熱量がすごく読み取れるものでした。私も明日から、未来を見据え行動をしていきたいと思います。担当者の方、本当にお疲れ様でした。 32-①

33 沢山の意見出たら良いですね。皆さんで開けて皆で考えるの良いですね 1

役所の人だけでなく皆で選んだ市会議員さんも参加して戴くのもいいのでは！ [33-①](#)

今回は市議会議員の方をはじめ、さまざまな立場、属性の方にご参加いただきました。フラットかつオープンな場こそが地域には必要であり、イノベーションにつながると考えています。

引き続き、多くの方にご参加いただけるような取り組み方を考えていきます。

34 ヒノタネミーティングに参加しましたが、いろんな世代と意見交換することができて良かったと思っています。普段生活していてそういう機会はないので。

[34-①](#)

ご意見をお寄せいただき、またヒノタネタウンミーティングにご参加いただきありがとうございます。

ビジョンにも多くの方の意見が反映されているので、今後も多くの方とタネを育てていってほしいですし、私自身もいろんな方とタネを育てていきたいと思います。 [34-①](#)

担当としてはこれまでの経験から「多世代交流」が目的となると場に興味を持ってもらうことが難しいなとも感じていました。今回はご指摘の通り「未来」という少しあいまいなテーマでも多世代で話すことができるのだと気づきました。良いテーマなどありましたらぜひ教えてください。

また、令和 5 年度以降も、本ビジョンを使いこなしていただくための取り組みを予定しております。引き続きよろしくお願いいたします。

35 日野地域未来ビジョン 2030、読ませていただきました。日野市に引っ越してきて数年になりますが、現在の日野市は、遠い存在の行政ではなく、手の届く行政と感じました。

[35-①](#)

本ビジョンは日野市に関わる人に、手に取ってもらい、使っていただくものにしたいという思いからビジョンの開発を進めてきました。ビジョンを策定しておしまいでなく、日々の暮らしにおいてビジョンを使っただき、暮らしをより豊かにするものとして活用していただければ幸いです。

変わりたい、変わらなくてはいけないと感じとれる姿勢に、手の届かない行政よりずっとよく、なんだかワクワクしました。

私たちの想いがどれだけ実現できるのか、楽しみにになりました。 [35-①](#)

[35-②](#)

ビジョンをより分かりやすく、また、実現していくためのアクションを考えていくきっかけを目指したコンセプトブックの公開を予定しております。また、6 月にはマンガ版の公開やお披露目の取り組みも予定していますので、どこかのタイミングで広報等で周知したいと考えています。

この私たちの未来を決める大切なビジョン、日野市に関わるすべての人の目に届くとよいなと思いました。

情報の多い社会ですので、他の情報と紛れないよう、みんなが気づけるよう、簡略版などを広報と一緒に配布していただくのもよいのではと思います。 [35-②](#)

なお、広報の別冊等になると予算の関係もあるため、現時点で可否は申し上げられないのですが、お声を参考に、一度、担当部署で検討いたします。

36 日野市の基本的な想いやスタンスを 40 ページから十分に感じられる素 0
晴らしいものだと感じました。

とはいえ、40 ページにわたり、関心がある人自らが手にとらない限り、これをヒントとすることはもちろん、考え行動していくことは更に難しいことだと思えます。

このビジョンが日野市に関わる市民のビジョンとなったその時、しあわせのタネを育てあう日野の土壌が耕され、あとは花開くのを皆でワクワクと心一つにして待つのみという状況になるのかもしれませんが。

私も土壌作りのために何ができるか考えたいと思います。 [36-①](#)

[36-①](#)

ご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。

「土壌づくり」という視点はなるほどなと思いました。タネだけでなく、タネが生み出されやすくなるような環境づくり、ということだと捉えました。

ある種生態系のような視点まで広げると、それ自体は当然難しいのですが、さまざまな関わり方の可能性(関わりしろ)があるように感じます。

今後の取り組みのヒントをいただいたと思います。引き続き、よろしくお願いいたします。